

小樽商科大学グリークラブOB会 新しい「雪明りの路」

合唱指揮者 横山 直樹

2022年11月13日(日)満員の札幌市教育文化会館大ホールで小樽商科大学グリークラブ創部100周年記念OB演奏会を聴いた。

今回注目すべきは、松下 耕委嘱作品「男声合唱のための雪明りの路」の初演である。作曲者のプログラムノートに『私は、伊藤 整という人間に惚れてしまいました。どのような文豪であっても、詩人であっても、その前には一人の人間として、男としての偽らざる姿があり、その赤裸々な姿こそが、「雪明りの路」という大詩集を作り上げたのだということがわかります。つまり、自分を曝け出すこと、そのものが創作活動なのだ」と証明してくれているのです。』とあるが、そのとおり、伊藤 整の詩が曝け出す青年像が見事な合唱曲となり、それを昔の青年たちが真摯に表現して聴衆の心にしみ込んだ。



最終ステージで多田武彦作曲の同名の組曲を抜粋して演奏し、アンコールでは同じ詩集から小樽商科大学グリークラブが1979年に多田武彦に委嘱した「吹雪の街を」の終曲が演奏されたことから、立体的なプログラムビルディングとなった。これらを的確に指揮した田中修身さんに拍手を送りたい。

音楽的に素晴らしかったのは木下牧子作曲の「愛する歌」。柔らかく深い男声合唱ならではの響きが「さびしいカシの木」を聴かせた。そして休憩後、昭和浪



入場料 1,000円
入場券は教育文化会館・道新・hitaru各アライメントからお買い求めください。

後援 小樽商科大学
公益社団法人緑丘会
緑丘会札幌支部・東京支部
札幌市・札幌市教育委員会
北海道新聞社

【入場時に持参する現金・クレジットカードのお願い】
・マスクの着用・手洗い等にご協力ください
・体調不良の際はご来場をお控えください
・帰路中のご帰入を御案内いたします。

(札幌市文化芸術活動再開支援事業)

小樽商科大学グリークラブ 創部100周年記念 OB演奏会

2022年
11/13
日

午後3時開演(開場:午後2時30分)

札幌市教育文化会館大ホール
中央区北1条西13丁目地下鉄東西線「西11丁目」駅、徒歩5分

演奏曲目

100周年記念演奏会委嘱作品(初演)

男声合唱のための 「雪明りの路」

作詩 伊藤 整
(詩集「雪明りの路」より)

作曲 松下 耕

男声合唱による10のメロヘン

「愛する歌」から

作詩 やなせたかし/作曲 木下 牧子

「愛唱歌アラカルト」

グリー&カンタールによる演奏(現役学生)

指揮

田中 修身・佐野 衛

ピアノ

佐藤 千春

小樽商科大学グリークラブOB会

●ご連絡先 E-mail: otaru.ug.glee100concert@gmail.com



漫～ニューミュージックと歌謡曲～では、「時代」など誰もが知る名曲が聴衆の心を和ませた。この2ステージは佐野 衛さんの指揮、佐藤千春さんのピアノで楽しく演奏された。

温かさ、懐かしさ、そして、男のロマンが漂う素敵な演奏会であった。青春をかけたグリークラブ時代の思い出が走馬灯のように駆け巡る時を過ごしたであろう30代から80代まで、65名の男たちに絶大なる拍手



Program

I 男声合唱による10のメルヘン 愛する歌 より

ひばり
海と涙と私と
雪の街
きんいろの太陽がもえる朝に
さびしいカシの木
誰かがちいさなベルをおす

作詞:ゆなせたかし
作曲:木下敬子
指揮:松本 亨
ピアノ:藤 千香

II 男声合唱のための 雪明りの路

創部100周年記念委嘱作品 [初演]

山にきた雪
雨
池のほとり
社会
ひとりで思ふ

作詞:伊藤 整
作曲:松本 亨
指揮:田中修彦

III 歌いつなくハーモニー

小樽医科大学グリークラブカントール

鶉
森の狩人アレク

作詞:三好達治 作曲:木下敬子
訳詞:村田さち子 作曲:Pyrosil Henry

昭和浪漫 ~ニューミュージックと歌謡曲~

男声合唱とピアノのための「時代」~ニューミュージックと呼ばれた歌たちより

時代 作詞:中島みゆき 編曲:長 貴 重
男声合唱「昭和浪漫」世代を詠え、若者たちへ贈る懐かしの名曲 より
つくない 作詞:浜木とよひさ 作曲:三木たかし 編曲:安藤由布樹
唄 作詞:作曲:松本 亨 編曲:安藤由布樹

指揮:松本 亨
ピアノ:藤 千香

... 休憩 ...

V 多田武彦の世界 ~私たちが愛したタダタケ~

男声合唱組曲「初河風俗語」より
柳 河 作詞:北原白秋
男声合唱組曲「雪明りの路」より
春を待つ 作詞:伊藤 整
月夜を歩く 作詞:伊藤 整
男声合唱組曲「雨」より
雨 作詞:八木重信
指揮:田中修彦



が続いた終演であった。

コロナ禍という過酷な時を経て、延期を余儀なくされ、その間に亡くなってしまった人もあり、体調悪化で参加を取りやめた人もいたとのこと。幾多の困難を超えて無事に演奏会を成功させた樽商OBの熱意と努力を大いに讃えたい。おめでとう！私も感動の時を過ごしました。

横山 直樹 プロフィール



1940年生まれ、北海道出身。大学時代から合唱活動に参加し、大学混声合唱団、グリークラブ、札幌ズインガアカデミー、札幌放送合唱団、アポロ男声合唱団等で合唱経験を積む。その後、北海道当別高等学校、北海道岩見沢東高等学校、静修短期大学、札幌国際大学等において、合唱、吹奏楽の指揮者を務める。2010年、自身の古希を機に混声合唱団「樹」を立ち上げて現在に至る。札幌合唱連盟理事、札幌市民芸術祭委員、コンクール審査員、各種セミナー実行委員長などを歴任。現在は、混声合唱団「樹」常任指揮者、合唱人集団「音楽樹」会員。

***** 編集部より *****

松下 耕作曲『男声合唱のための雪明りの路』の初演が行われました。『雪明りの路』は、大正15年12月、伊藤 整が21歳のときに出版した116編からなる詩集です。整は「此の詩集の大部分を色付けてあるのは北海道の自然である」と強調しているように、塩谷や小樽近郊の自然や風土を詠っています。

北海道の自然。そして自身の恋愛体験。『雪明りの路』は、この二つが平明でやさしい言葉によって綾をなす極めて繊細な叙情詩です。四季の移り変わりの中で恋愛をはじめとする自己の心の揺らぎを祈り込んでいます。

「あらわに恋愛感情を描いた何編もの詩がその中にあった。

夜、宿直室のストーヴのそばに据えたテーブルでそれを校正しながら、私は中学校教師の出す本にしてはまずいな、と思った。しかし、それ等幾編かの恋愛詩を抹殺するのは、その一冊の詩集の命を消し去るようなことであった。」『雪明りの路』が自己の恋愛感情を綴った詩編を抜きにしては成り立たず、そしてそれを出版するには己の職さえ危ぶんでいたことを窺わせるものです。事実、友人からの強い出版の勧めがなければ、とうていこの詩集を出すことなど考えもしなかったと整はいいます。

故多田武彦氏の『雪明りの路』とは異なる、五つの詩編を用いて生まれ変わりました。